



2019年度 杏林大学 一般入学試験

I

問1 ⑤ 問2 ④ 問3 ④ 問4 ④ 問5 ③ 問6 ⑧ 問7 ③ 問8 ④ 問9 ④,⑤ 問10 ⑤

II

問1 (1) 細胞周期 : 16時間 (2) M期 : 02.9時間 問2 細胞の大きさ : $16.3\mu\text{m}$

問3 (1) A ③ B ② (2) A ①, ③ B ②, ⑥

問4 (1) ③ (2) ①

III

A 問1 ③ 問2 ④

B 問3 ③→②→① 問4 ②

C 問5 ① 問6 確率 : 0.38

IV

A 問1 ② 問2 伝導速度 : 042.3m/秒 問3 ③ 問4 ② 問5 ⑤

B 問6 ①, ⑥ 問7 ③ 問8 X : ① Y : ②



2019 年度 杏林大学 一般入学試験

【 講 評 】

比較的受験生の解答しやすい問題が多く並ぶ試験であった。大問数が3題であったところから4題に増加し、50分の解答時間は短く感じた受験生が多かったのではないだろうか。I~IIIでは基本的な出題が多く、ここでミスをした受験生は苦しい。IVの考察問題は難度が高く、ここで大きな差が出たと思われる。出題内容は生物の環境応答や進化や分類を交えバランスよく、基本レベルの確認をする良問が多かった。生物が苦手な受験生であっても7割は得点したい。

I 小問集合	難易度：標準
幅広い単元からバランスよく出題された。進化・生態系からやや細やかな出題も散見された。取りこぼしの無いようにしたい。	
II 細胞分裂 光周性 酵素反応	難易度：易
問2では、対物レンズの倍率が変化していることに注意したい。問4では、内容は理解していたものの、グラフの線を読み違えた受験生が多かったのではないだろうか。	
III 血糖調節 視覚 免疫	難易度：標準
問3を解答するには網膜の構造をしっかりと理解しておく必要がある。手持ちの知識を、与えられた資料に合わせて展開する力が問われている。	
IV 神経と筋肉 DNAの複製	難易度：やや難
前半の興奮の伝導、筋収縮の問題は標準的な内容になっている。しっかりと完答したい。後半のDNA複製の実験考察問題は、リード文から設定を読み取るのが難しく、データも解釈しにくい。自信をもって解答するには、しっかりとした実力を必要とする。	

最終合格へのラストスパート!!!!!!

医学部後期入試対策講座

埼玉医科大・金沢医科大・藤田医科・杏林・久留米・近畿大・
関西医科大・大阪医科大 申し込み受付中

イシャ ニナロウ

お問い合わせは ☎0120-148-276